

しいのき



人気の「おひなさま展」

名誉館長 三 隅 治 雄

当資料館が例年春にさきがけて催す「おひなさま展」は、いまや、中野の名物…というより、他府県からも見学に来る東京の名物になりつつあります。まず何より、当館設立に貢献した故山崎喜作氏の家代々が伝えたお雛さまが逸品揃いで、江戸時代を代表する次郎左衛門雛、古今雛、そして市松人形や御所人形など百数十点がずらり7段に飾られた華麗さは、人目を奪わずにはいません。上の写真は、その中の次郎左衛門雛ですが、これは、京の人形師雛屋次郎左衛門が、宝暦11年（1761）、江戸に下って日本橋室町で売り出したのが人気を呼んだものと申します。顔がまんまるく、鼻がチョンとくっついて、その下の口もとがこれまたポツンと可愛いらしく、たちまち子どもたちのアイドルになりました。古今雛は次の時代の人気者で、当館では、その後の近現代に至る多彩な雛人形を、展示室内外いっばいに飾って、「雛節句」という他国にない美しい習俗と、それに寄せた日本人の心と表現の優雅さを、味わって頂こうと願っています。

文化財よもやま話

郷土玩具いろいろ

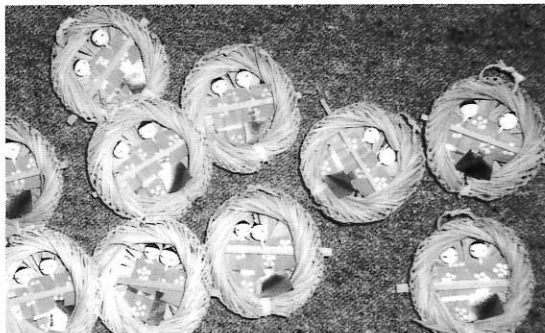
資料館では数多くの郷土玩具を所蔵しています。今回はその中から年中行事に関わりのある玩具を二種ご紹介いたします。

「うそ替え神事」は、東京近辺では亀戸天満宮で行われる行事としてよく知られており、正月の24、25日には「うそ」を買い替える人々で賑わいます。ここ中野区でもこの神事を行う神社があります。新井の北野神社がそうですが、ここでは新年を迎えた午前零時になると「うそ」が売られ始めます。

うそ替え神事は文政2（1819）年に大阪天満宮で始められ、翌年に亀戸でも行われるようになりました。去年一年の不幸を嘘にして吉事に取り替えようとするもので、元来、参拝者同士が手にしたうそを交換しあう行事であったといえます。またうそは火伏せのまじないとして、家に持ちかえった後神棚にあげるなどされていました。現在では、去年の古いうそを納め、新たなものを求めることが一般に行われています。

菅原道真が遭難の折の救い鳥ともいわれる鶯鳥は、スズメ目の小鳥のことで、頭部が黒く、背は青灰色、腹は灰色のよく人になれる鳥なのだそうです。うそ替えの「うそ」は、この鶯鳥を木で形づくり、彩色をし、背後の尾部に削り掛けを施しています。地域ごとにそれぞれ異なる表情がみられます。

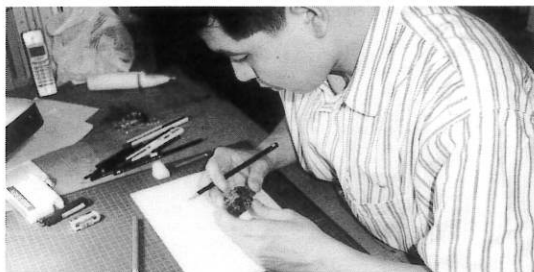
さて、もう一点は「流し雛」です。これは鳥取県の郷土玩具で、縦10cmほどの男女一対の紙製の雛人形です。こちらは当資料館の今年度の「ひなまつり展」で展示されますので是非ご覧下さい。



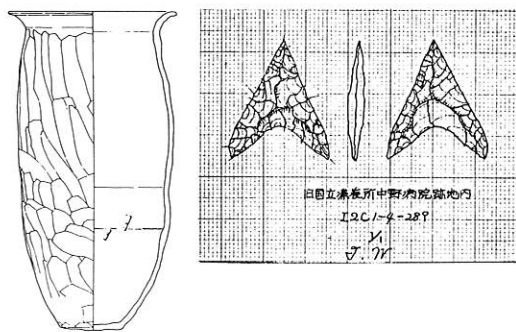
大地に眠る歴史

発掘調査はどうやるか（その5）

さて、出土遺物の復元などが終了すると、次に必要な仕事は、遺物の実測図を作成することです。遺物の実測図は、三角定規やデバイダー・コンパスなどを用いて測りながら、方眼紙に実物そのものの形を図化していきます（写真）。



実測図の表現には、一応の約束事があります。土器などの器類は器を縦に切った状況を想定して、右側に断面の厚み（欧米では右側に断面を表現します）と器の内側の様子、左側に外面の様子と側面の形を測っていきます（図左）。石器などは、表面と裏面の様子と厚みを表現します（図右）。



また、土器などの図には、表面につけられた文様や、製作したときの技法、例えば削った跡、磨いた跡、なでた跡などの痕跡も正確に測って書き込んでいきます。石器の場合は製作した時の打ち欠いた跡が残りますので、その痕跡を打ち欠いた手順を観察しながら、丹念に表現していきます。

この実測図作成は遺物の整理作業の中で一番重要なもので、その出来の善し悪しは、そのまま実測者の観察力と表現力、ひいては遺物に対する知識や研究・勉強の度合いを示すものとなります。

（つづく）

▼各種字典から集字。中央は篆書体

古文書つづり

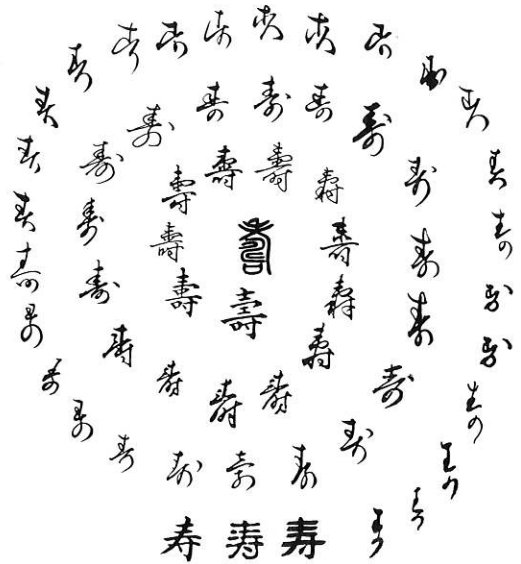
「寿」百態 文字の妙

古文書を読んでいますと同じ文字でもいろいろなくずし方があることに気がきます。なかには正字(楷書体)に結びつかない形にまでくずれたものもあって、読み解くのにはたいへん苦勞します。

その一方、古文書でのくずし方はさほど難しくないので、書道界では多彩な姿をもつとして有名な字に「寿」があるそうです。確かに、文字をあくまで記録・伝達的手段とする文書より、字そのものを目的とする書道の方が「寿」という文字の重要性は高そうですね。

普通の史料に頻出する文字ではありませんが、それでも字典を見ると様々なくずし方ができます。一つの文字が十色百態千差万別の姿となるなくずし字。難しい文字を読んでいくのは根気の要る作業ですが、それだけに艱難辛苦の末やっと読めたときは欣喜雀躍たるものがあります。

みなさんもこの愉悅を体験してみませんか？



寿…シュウ・ジュ・ことぶき。命が長い・命・年寄・言祝ぐ・星の名前、など。『書経』は人生の理想的幸福に「寿・富・康寧・攸好徳・考終命」の5つを挙げており、その筆頭が「寿」。中国では桃・鶴・鹿・靈芝・菊も長命を寓意する。

中野往来

古老の知る幻の駅

西武新宿線に乗り西武新宿駅を出発して約20分。車窓からわずかな農地(生産緑地)が初めて見えてきます。中野区鷺ノ宮です。50余年前は、麦畑の続くのどかな田園風景が広がっていました。

このような時代に鷺ノ宮駅と下井草駅との間に、もう一つの駅(西鷺ノ宮)があったのです。

西武鉄道では、昭和17年9月から19年8月まで営業をしていたと言うことでした。戦時中のことでもあり、写真なども無く、当時の様子は分からないとのことでした。

さっそく、今も農業を営んでいる、鷺宮六丁目の古老を訪ねました。古老によれば、「昔(昭和10年代)この辺から麦畑の向こうに武蔵野線(西武池袋線)の走るのまで見えたんですよ」と溜息をつきました。そして、ぼつぼつと、当時の様子を話してくれました。

「西武新宿線には、鷺ノ宮駅の次に西鷺ノ宮と言う

駅があって、この辺も開けて便利になると思いましたが、そうはいきませんでした。そもそも西鷺ノ宮の駅は、新青梅街道の所にある都立武蔵丘高校ができ、学生さんの便をはかるため昭和17年9月にできた駅なのです。しかし、駅と駅の間が近すぎることあったか、わずか2年足らずで中止になってしまいました。なにせ、次の下井草の駅が見えるんですから。仕方ないですよ。どの当たりかと言うと、区立武蔵台小学校前の信号のある十字路を南に下がった踏み切りの所で、鷺ノ宮駅寄り(白鷺三丁目)にありました。なにせ、都立武蔵丘高校から真つすぐだものですから」と話してくれました。



矢印は西鷺ノ宮駅のプラットフォームの跡

事業報告

各種事業経過

1998年10月～12月

事業名	内 容	期 間
特別企画展	「鉄道にみる 中野の歴史」	10/1～11/22
企 画 展	「ポスター・チラシで綴る 10年のあゆみ」	9/15～12/27
古文書講座	「入門コース」講師：大友一雄氏(国文学研究資料館助教授) 笠原 綾氏(学習院大学大学院) 太田尚宏氏(北区行政資料センター資料専門員)	10/3～11/28
体験講座	「拓本講座」(東京文化財ウィーク)講師：当館主任学芸員・専門研究員	11/7・8
文化財調査	中野駅周辺地区民俗調査 新井・上高田地区民俗調査報告書刊行作業	8/1～ 継続中
埋蔵文化財 調 査	江古田遺跡(旧国立療養所中野病院跡地)調査報告書刊行作業 寺山西遺跡(ベタニアホーム地区)調査報告書刊行 江古田一丁目民有地立会調査 本町六丁目民有地立会調査 江古田三丁目民有地立会調査 中野三丁目民有地確認調査	継続中 12/1 9/1 9/4 11/26 12/1

寄贈資料一覧

1998年9月～11月
敬称略・受入順

資 料 名	点 数	氏 名
電 話 機	1	原 久雄
算 盤 (五ツ玉)	2	横山 千代
重 箱・こけし	17	東 かずえ
地 図・書 籍	2	近辻 喜一
乗車券・古 銭	一式	斎藤 久子
学童疎開写真	84	寺尾 美枝

◎貴重な資料をありがとうございました。厚く御礼申し上げます。



特別企画展「鉄道にみる 中野の歴史」



東京文化財ウィークに参加した「拓本講座」

入館状況

1998年9月～11月(延71日間) (人)

一 般	社教団体	学校教育	合 計
7,196	223	477	7,896

発行年月日 1999年1月1日

山崎記念
編集・発行 **中野区立歴史民俗資料館**

〒165-0022 東京都中野区江古田4-3-4

☎ 03(3319)9221 FAX 03(3319)9119

(印刷物登録番号 10中教社第5号)